



社会福祉法人いきいき牧場専務理事
障害者就労支援施設「のびやか丸」施設長

岩根多喜男さん

岩手県社協・障がい福祉協中央ブロック監事
全社協・セレブ協財務・財政・広報委員会委員
全国精神福祉ネットワーク幹事

平成24年度全国社会福祉大会で
「全国社会福祉協議会会長表彰」を受賞



施設前に掲げられている「いきいき村」
建設構想



笑顔絶やさない 施設機能を持ち続けたい

受賞後の抱負をお聞かせください

当法人は設立20年になりますが、現在のいきいき牧場の根っこは、盛岡市民福祉バンク附属農園時代のいきいき牧場です。昭和49年から前理事長（馬場勝彦さん）らが、リサイクルと在宅福祉をドッキングさせた障がい福祉運動の充実に努め、その後、盛岡市競馬場の移転に伴って平成5年に現在地にいきいき牧場を設立しました。

これまで「先駆的・開拓的」という言葉を頂いていますが、根幹は建設構想「夢編」に掲げる『能率やお金で価値をはかる社会の中では、どうしても幸せを求めることが難しく、いつもはみ出している人々が居ます。—そしてやがては誰もがそうなります。それならば違うものさしで幸せをはかるもうひとつの社会をつくってみようと思ふのです』（以下略・昭和56年）が、一貫した法人の原点

です。
表彰は理念実践へと向かう職員、家族会、そして利用者、関係者一緒の表彰と思います。

ここ数年、福祉の流れが変わってきましたが

この20年で福祉概念の幅も拡がりました。初めて精神障がい者が「福祉」の範ちゅうに入ったのは平成7年です。また、平成17年の障害者自立支援法制定により、三障がい一元化による支援費制度への移行、障がい者の就労支援強化など、ここ数年で福祉制度の流れは激変しています。

一方で近年はサービスの受け手である障がい者自身も、障がい隠すことなく進んで発言したり、顔を見せたりしています。また、平成22年に障がいのある人も共に暮らしやすい「障がいのある人もない人も共に学び共に生きる岩手づくり条例」が施行され、社会の受け皿もやわらかくなっています。

こうした障がい福祉の制度改革の先頭に立って、知的・精神障がい者をリードしてくれたのは、県身障協、家族会、守る会の方々ではなかったかと思えます。ルールを敷いてくれた方々の思いに込めるには、常に「福祉とは何か」を自問し、地域で頑張っている障がい者の笑顔を絶やさない最大限の支援をしなければ

と思います。

グループホーム・ケアホームが拡充していますが、就労の場に向けた課題などはいかがでしょうか

「元気丸」（知的障がい者入所更生施設・定員50名）は市内3か所のグループホームとクローバーの家に24名が、「のびやか丸」（精神及び知的障がい者を対象に社会復帰を支援する多機能型施設）は市内4か所のなごやかハウスなどに37名が生活しています。

就労の場については街中にサテライトショップを増やし、就労と雇用の場を拡げながら、一般の店舗などとも協働し景気動向に左右されない事業創出に取り組まなければなりません。農業型施設のため冬場は仕事量が減少傾向にあります。最近では市内マンションなどの除雪依頼にも応じています。

当法人は設立以来、利用者を真ん中に職員と家族会がスクラムを組んで、設立当初から活動を支えてくれた後援会や関係者とともに、一歩一歩新たな福祉の流れをつくるよう努力を重ねてきました。これから一人ひとりが自分らしく能力を発揮できるように、社会参画の機会を高めなければなりません。

課題は職員が長く働ける職場環境づくりと、覚悟をもって次の時代の福祉を担う職員の育成です。